



注意

解禁日指定あり 5月7日(火)18:00 厳守にてお願いします。

**吉野彰教授が2019年欧州発明家賞にノミネート
本学では2015年に受賞した飯島澄男終身教授以来**

電気自動車やスマートフォン、パソコンなどの電池に使われている「リチウムイオン電池」の開発者の吉野彰大学院理工学研究科教授（71）が、欧州特許庁主催の2019年欧州発明家賞「非ヨーロッパ諸国部門」のファイナリスト（最終候補者）にノミネートされました。

選出理由は「リチウムイオン電池の発明及び改良」です。

受賞者は、6月20日（現地時間）にウィーンで開かれる式典で発表されます。

本学では、カーボンナノチューブの発見者で文化勲章受章者の飯島澄男終身教授、湯田坂雅子特任教授らのグループが2015年欧州発明家賞「非ヨーロッパ諸国部門」にノミネートされ、日本人で初めて受賞しています。

詳細は、別紙欧州特許庁のリリース（4枚）をご覧ください。



<p>吉野教授のコメント</p>	<p>このたび欧州特許庁から2019年欧州発明家賞のファイナリストに選ばれました。「リチウムイオン電池の発明が私たちの暮らす社会に大きな衝撃を与えた」という欧州特許庁長官の言葉に大変感激しております。</p>
<p>吉野教授の略歴</p>	<p>大阪府出身。1970年、京都大学工学部石油化学科卒。1972年、同大学院工学研究科修士課程修了。同年、旭化成株式会社（旧旭化成工業株式会社）入社。同社電池材料事業開発室室長、フェロー、顧問を経て名誉フェロー。工学博士。電気化学専攻。</p> <p>2004年、リチウムイオン電池開発の功績で紫綬褒章受章。2014年、全米技術アカデミーから「The Charles Stark Draper Prize（チャールズ・スターク・ドレイパー賞）」を受けました。同賞は「工学分野のノーベル賞」といわれ、2014年ノーベル物理学賞受賞者の赤崎勇終身教授・特別栄誉教授も2015年に受けました。</p> <p>2017年7月から本学大学院理工学研究科教授。2018年には、「日本版ノーベル賞」といわれる第34回 Japan Prize（日本国際賞）、第71回中日文化賞を受賞しました。</p>